

## 千葉市コミュニティ施設における利用者の施設選択の実態とその要因

日大生産工（院） ○高橋 敦吏  
日大生産工 広田 直行

### 1. はじめに

#### 1-1. 研究の背景と目的

現在, 公民館・コミュニティセンターでは, 様々な活動が行われている。

公民館は 1949 年に旧文部省のもと社会教育施設として整備され, 地域のコミュニティ活動の拠点としての役割を担っている。また, コミュニティセンターは 1973 年に旧自治省のもとモデルコミュニティ事業として, 千葉市をはじめとして整備が行われてきた。

しかし, コミュニティ施設利用者の活動要求は多岐にわたり, 単一の施設で全ての活動要求を満たすことは困難である。そのため利用者は, 遠方の施設の利用や, 複数の施設を利用することで活動要求を満たしている。

そこで本研究では, 利用者による施設選択の現状とその要因を明らかにすることを目的とする。

#### 1-2. 研究の対象と方法

本研究では, 千葉市内の公民館全 47 事例とコミュニティセンター全 14 事例を対象とする。中央コミュニティセンター松波分室は耐震改修中であり利用ができないため, 研究対象から除外する。

本稿では, 調査が終了している千葉市中央区内の公民館全 9 事例とコミュニティセンター全 3 事例について報告する。表 1 にその概要を示す。調査方法は, 各施設の利用者へのアンケート調査とする。アンケートの質問項目を表 2 に示す。

### 2. 施設利用の現状

アンケート集計結果を表 3 に示す。また, 表 3 に示した有効な回答を用いて研究を行う。

#### 2-1. 利用する施設数

利用者が利用する施設数の割合を図 1 に示す。図 1 より, 30%以上の利用者が複数の施設を利用していることが分かる。また, 複数の施設を利用する際の最多施設数は 4 施設である。

表 1 調査対象施設概要

| 施設名              | 建築年   | 延床面積(m <sup>2</sup> ) |
|------------------|-------|-----------------------|
| 椿森公民館            | 1974年 | 404                   |
| 川戸公民館            | 1974年 | 404                   |
| 星久喜公民館           | 1977年 | 405                   |
| 末広公民館            | 1973年 | 410                   |
| 葛城公民館            | 1971年 | 416                   |
| 生浜公民館            | 1967年 | 810                   |
| 新宿公民館            | 2005年 | 905                   |
| 松ヶ丘公民館           | 1960年 | 1,148                 |
| 宮崎公民館            | 1971年 | 1,173                 |
| 中央コミュニティセンター松波分室 | 2001年 | 279                   |
| 蘇我コミュニティセンター     | 1979年 | 2,541                 |
| 中央コミュニティセンター     | 1974年 | 7,385                 |

表 2 アンケート項目

| 基本情報               |           |
|--------------------|-----------|
| ①                  | 性別        |
| ②                  | 年齢        |
| ③                  | 自宅住所      |
| 公民館・コミュニティセンターについて |           |
| ④                  | 利用する施設    |
| ⑤                  | 利用頻度      |
| ⑥                  | 移動方法      |
| ⑦                  | 利用する室     |
| ⑧                  | 施設を選択する理由 |

表 3 アンケート集計結果

| 男性(人) | 女性(人) | 無効数(人) | 有効数(人) | 回答者総数(人) |
|-------|-------|--------|--------|----------|
| 175   | 240   | 21     | 415    | 436      |

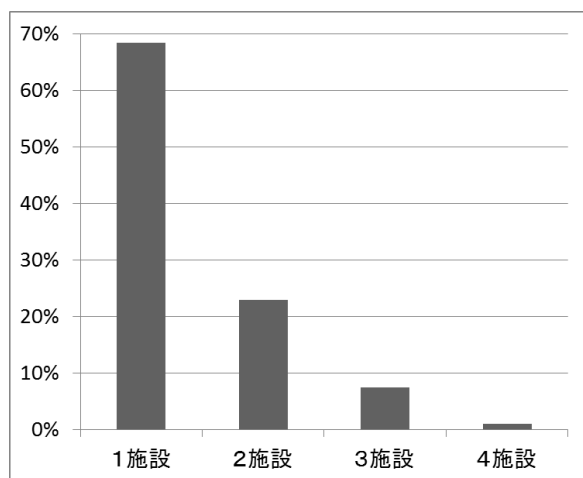


図 1 利用する施設数の割合

2-2. 施設距離

アンケート項目の③で得られた情報を用いて街区の重心から施設までの直線距離を算定したものを自宅から施設までの距離として使用し、これを施設距離と定義する。

施設距離の割合を図2に示す。図2より、施設距離が13000mを超えると利用者の割合は2%以下になることから、施設距離が短くなるにつれて利用者数も減る傾向が見られる。このことから、利用者は施設距離の短い施設を選択していると考えられる。

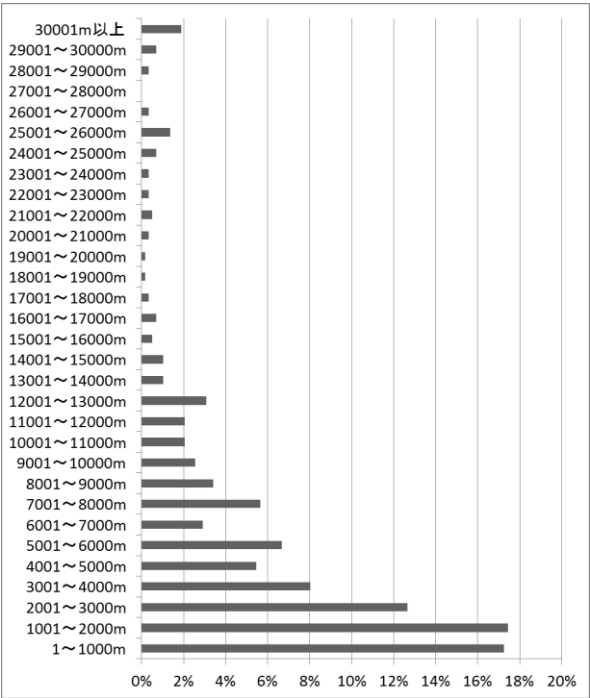


図2 施設距離の割合

2-3. 施設の利用頻度

利用者が施設を利用する頻度の割合を図3に示す。図3より、月2回と月4回の利用が30%以上であることから利用頻度はサークル活動に影響すると考えられる。また、月に5回以上の利用は全て5%以下である。

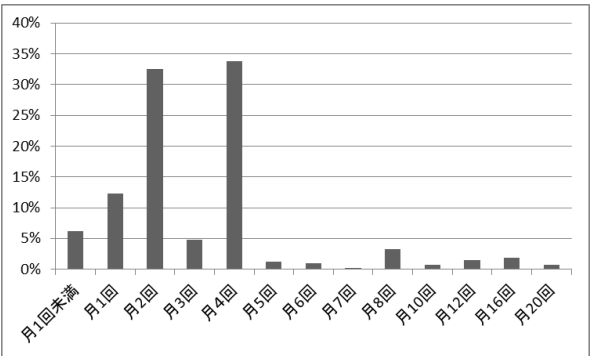


図3 施設の利用頻度の割合

2-4. 施設を利用する際の移動手段の割合

利用者が施設を利用する際の移動手段の割合を図4に示す。図4より車利用者の割合が40%以上で最も多く、徒歩・自転車の割合は20%以下である。バス・電車の割合は15%以下であり最も低いことから、公共交通機関の利用は少ない。全ての移動手段の中で車の利用が最も多いことから、駐車台数の確保が必要であると考えられる。

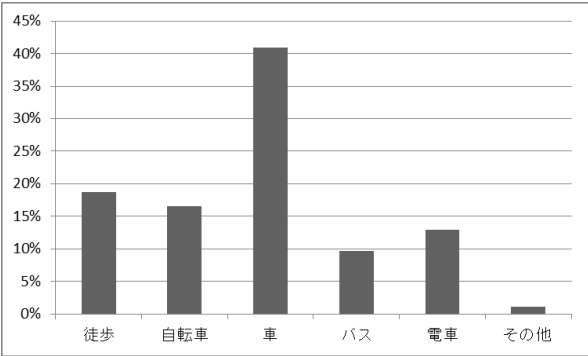


図4 施設を利用する際の移動手段

2-5. 施設利用の形態

公民館には中学校区に住む住民を対象に、コミュニティセンターには千葉市在住・在勤の住民を対象とした、施設利用者の対象圏域が存在する。しかし、対象圏域を超えた利用や、複数の施設を利用するなど、施設利用の形態は多岐におよぶ。対象圏域内の施設を利用することを圏域内利用、対象圏域外の施設を利用することを圏域外利用と定義する。施設利用形態の詳細を表4に、施設利用形態の割合を図5に示す。

表4, 図5より, No.①, No.⑦, No.⑬の割合が多いことから、圏域内利用、圏域外利用、コミュニティセンターともに1施設のみの利用が多い、圏域内の公民館に比べ、コミュニティセンターと他の圏域の公民館の利用が多いことがわかる。また、No.⑥, No.⑫の利用形態がみられない。

表4 施設利用形態

| 分類         | No. | 詳細                     |
|------------|-----|------------------------|
| 圏域内利用      | ①   | 公民館                    |
|            | ②   | 公民館+コミュニティセンター単数利用     |
|            | ③   | 公民館+コミュニティセンター複数利用     |
|            | ④   | 公民館複数利用                |
|            | ⑤   | 公民館複数利用+コミュニティセンター単数利用 |
|            | ⑥   | 公民館複数利用+コミュニティセンター複数利用 |
| 圏域外利用      | ⑦   | 公民館                    |
|            | ⑧   | 公民館+コミュニティセンター単数利用     |
|            | ⑨   | 公民館+コミュニティセンター複数利用     |
|            | ⑩   | 公民館複数利用                |
|            | ⑪   | 公民館複数利用+コミュニティセンター単数利用 |
|            | ⑫   | 公民館複数利用+コミュニティセンター複数利用 |
| コミュニティセンター | ⑬   | コミュニティセンター単数利用         |
|            | ⑭   | コミュニティセンター複数利用         |

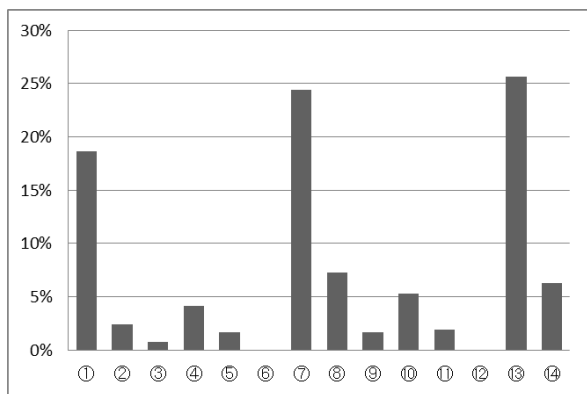


図5 施設利用形態の割合

### 3. 施設距離の関係

#### 3-1. 施設距離と利用頻度の関係

施設距離ごとの利用頻度の割合を図6に示す。図6より施設距離が長くなるにつれて、月1回以下の割合が増え、月4回以上の割合が減ることから、施設距離が長くなるほど、利用頻度は少なくなる傾向がみられる。

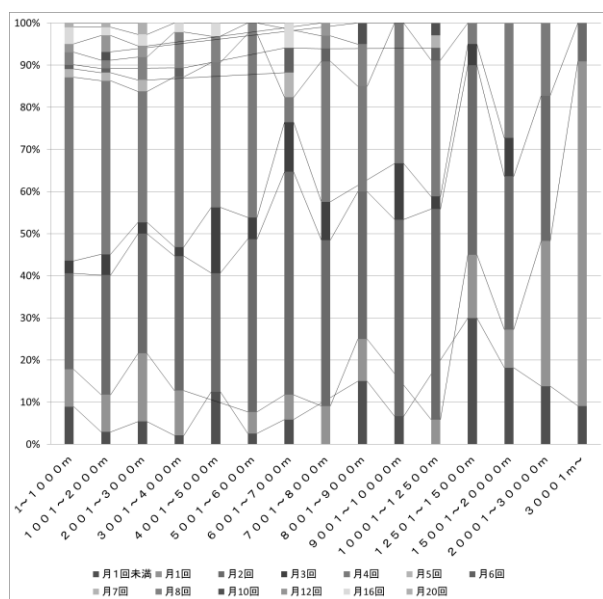


図6 施設距離と利用頻度の関係

#### 3-1-2. 複数の施設を利用する際の施設距離と利用頻度の関係

複数の施設を利用する際の、施設距離と施設ごとの利用頻度の関係を図7に示す。図7より、2つの施設を利用している場合では、利用頻度に差がないが施設距離は異なる割合が50%を超えている。また、3施設以上の利用をしている場合では、利用頻度が多い施設のほうが施設距離が短い割合が40%を超えていることから、利用する施設の数が増えるほど利用頻度と施設距離の関係が強くなる傾向がみられる。

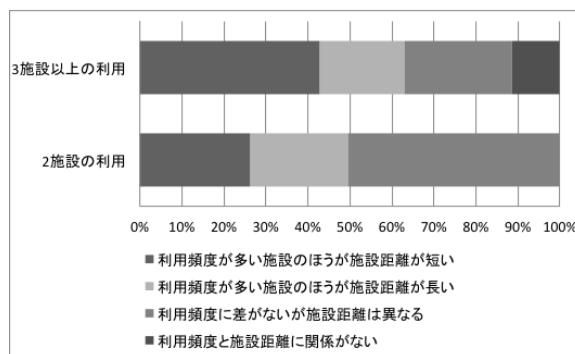


図7 施設ごとの利用頻度と施設距離の関係

#### 3-2. 施設距離と延床面積との関係

施設距離ごとの延べ床面積の割合を図8に示す。図8より、規模の大きい施設を選択する際に施設距離が長くなると考えられる。また施設距離と延床面積の相関係数は0.181496である。

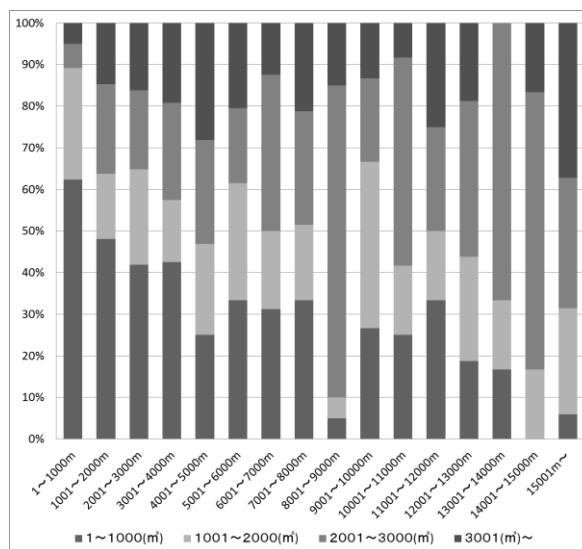


図8 施設距離と延べ床面積の関係

### 4. 施設選択の要因

#### 4-1. 施設距離と利用目的の関係

アンケート項目⑧より得られた施設を選択する理由と施設距離との関係を図9に示す。図9より、施設距離が1~1000mの場合は「家から近いから」という理由で施設を選択している割合が最も多い。また、施設距離が長くなるにつれて「家から近いから」という理由は少なくなっていく。施設距離が1~1000mより長くなると「参加したいサークルがあるから」という理由が最も多い。このことから施設距離に関係なくサークル内容によって施設を選択していることが分かる。

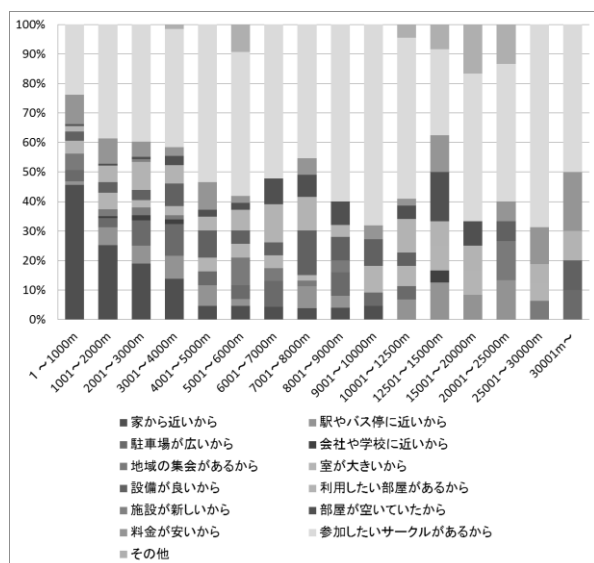


図 9 施設距離と施設を選択する理由の関係

#### 4-2. 室の設置率と施設選択の関係

各施設に設置されている室名称からサークル活動に利用する室を抽出し、それを分類する。室の分類と、設置率を表 5 に示す。

施設を複数利用している場合において、利用している施設に設置されている室を他の施設で利用する場合を「空き室利用」、利用している施設に設置されていない室を他の施設で利用する場合を「補完利用」と定義する。

複数の施設を利用している利用者における、補完利用と空き室利用の割合を図 10 に、補完利用の際に利用される室の割合を図 11 に示す。表 5、図 10、図 11 より、施設を複数利用している利用者のうち 80%以上の利用者が空き室利用であることが分かる。また、補完利用は主に設置率の低い室で行われていることが分かる。このことから利用する室が、施設選択に関係していると考えられる。

表 5 室の分類と設置率

| No. | 室分類          | 設置率  |            |
|-----|--------------|------|------------|
|     |              | 公民館  | コミュニティセンター |
| 1   | 集会室          | 100% | 100%       |
|     | 会議室          |      |            |
|     | 集会所          |      |            |
|     | 講習室<br>サークル室 |      |            |
| 2   | 和室           | 100% | 100%       |
| 3   | 調理室          | 100% | 86%        |
| 4   | 創作室          | 24%  | 86%        |
|     | 工作室          |      |            |
| 5   | 音楽室          | 2%   | 71%        |
| 6   | ホール          | 98%  | 86%        |
|     | 講堂           |      |            |
|     | 多目的室         |      |            |
| 7   | 体育館          | 0%   | 57%        |
|     | プール          |      |            |
| 8   | 図書室          | 46%  | 29%        |

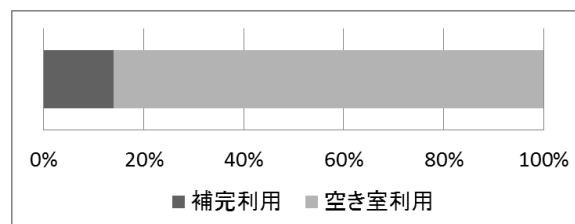


図 10 補完利用と空き室活用の割合

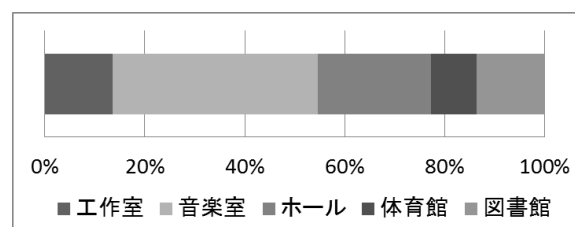


図 11 補完利用の際に利用する室の割合

## 5. まとめ

### 5-1. 施設利用の現状

- 1) 施設利用者の 30%以上が複数の施設を利用している。
- 2) 施設の利用頻度は月 2 回、月 4 回の利用が最も多い。また、利用頻度にはサークル活動が影響している。
- 3) 施設への移動手段は車が最も多いことから駐車台数の確保が必要である、公共交通機関の利用は最も少ない。
- 4) 1 施設のための利用において、圏域内の公民館に比べ、コミュニティセンターおよび他の圏域の公民館の利用者が多い。

### 5-2. 施設選択の要因

- 5) 利用者は施設距離の短い施設を選択している。
- 6) 施設規模が大きければ、施設距離が長くても選択される。
- 7) 施設選択には利用したい室や、参加したいサークルの有無が影響している。

### [参考文献]

- 1) 岩片優二: 高齢者の日常利用施設の設置状況からみる地域的課題とその対策
- 2) 片桐隆博: 千葉市コミュニティ施設における学習行為と空間の対応